

こちら航空宇宙推進室 ニュースレター

東海大学学生ロケットプロジェクト打上げ実験に成功

3月6日、東海大学の学生ロケットプロジェクトが、大樹町にてハイブリッドロケットの打上げ実験に成功しました。

今回の試験では、打上げた機体を損傷なく回収するためのパラシュート2段階放出機構を実証し、パラシュート開傘時の機体への衝撃（オープニングショック）に関するデータを取得しました。

東海大学は、2004年から大樹町で実験を行っており、今回で29機目のロケット打上げとなりました。今後、試験結果を基に最終目標の高度100km以上の宇宙到達に向けて開発を進めます。

《ロケット 概要》

名称：ハイブリッドロケット59号機

機体：GFRP（ガラス繊維強化プラスチック）

チューブを主体としたモジュール構造

独自開発のパラシュート放出機構「不知火Ⅲ」、「不知火Ⅳ」、「壺」を搭載

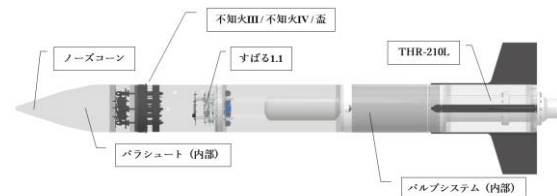
エンジン：固体のWax燃料（ロウ）

酸化剤は液化亜酸化窒素

全長：1.7m

直径：154mm

重量：14kg



三井物産北海道支社と包括連携協定を締結しました

2月28日、大樹町とSPACE COTAN（スペースコタン）、三井物産株式会社北海道支社の三者で、「北海道スペースポートの更なる発展と地域の活性化に関する包括連携協定」を締結しました。

宇宙事業への豊富な知見と総合商社としての強みを持つ三井物産と連携し、HOSPO（ホスポ）の更なる発展と宇宙のまちづくり、さらには脱炭素分野の取り組み等幅広い分野で協力し、ビジョンである「宇宙版シリコンバレーの早期実現」と地域の経済活性化を目指します。



左：三井物産北海道支社 中野社長、中央：黒川町長、
右：SPACE COTAN 小田切社長

SPACE COTAN 三井物産共創基金の支援事業採択

北海道スペースポート（HOSPO）を運営するSPACE COTANは、三井物産株式会社による「三井物産共創基金」の支援事業に採択されました。

三井物産共創基金は、様々な社会課題の解決に挑戦するイシューファインダー（社会課題を発見し解決に取り組むNPO、研究者、社会起業家等）とさまざまな事業経験をもつ三井物産が双方の知見をかけ合わせ、社会的課題の解決の道筋を創り出す活動を助成することを目的としています。

今回の採択では2024年1月から2026年12月の3力年で1億円の助成金が交付され、国内外の民間ロケット事業者や大学のサブオービタルロケットの打上げ支援や打上げ環境の整備に活用されます。



HOSPOサポーターズ交流会を開催しました

HOSPOの取組みを応援する企業・団体で構成されるHOSPOサポーターズの限定イベント「北海道スペースポート交流会」を2月28日、札幌市で開催しました。サポーターの会員約90名にお集まりいただき、講演会と交流会を行いました。

講演会では北海道経済連合会の藤井会長に「宇宙版シリコンバレー」実現に向けたアクションプランについて、Space Port Japanの青木理事に世界の宇宙産業とスペースポートの動向について講演いただきました。

また、内閣府地方創生推進事務局の平尾参事官補佐や、黒川町長も登壇しました。



国際宇宙産業展に出展しました

2月20日～22日、東京ビッグサイトで開催された、宇宙分野の産業展示会「2024国際宇宙産業展ISIEX」に出展しました。

北海道経済産業局や北海道庁のほか、道内で宇宙産業に取り組む「釧路製作所」、「MJOLNIR SPACEWORKS（ミヨルニア・スペースワークス）」、「Letara（レタラ）」と共同で出展し、各社の取組みや北海道スペースポートのPRを行いました。

- ・ 釧路製作所：主に橋梁の製造を行っている企業で、ロケット発射場設備・ロケット部品の製造で宇宙関連産業への進出を目指している。
- ・ MJOLNIR SPACEWORKS：「ハイブリッドロケットエンジン」と「溶接タンク」の技術を活かし、ロケットの大量生産の実現を目指している。
- ・ Letara：北大発スタートアップ企業として、小型人工衛星を希望する軌道に乗せる推進ユニットを開発している。

